

## ニュース断片

## 第22回世界保健機関総会開かれる



第22回世界保健機関WHO総会は、131の加盟国などの代表450名を集め、1969年7月8日から25日まで、アメリカのボストンで開かれた。

はじめに、アメリカの保健教育福祉省長官 R. Finch 氏からのアドレスがひろうされた。このなかでは、合衆国においては、医療費の上昇率が全生活費の2.5倍も高い増加率で上昇していることが最大の問題である、とことが述べられた。

WHO事務総長 M. G. Candau 博士は、あいさつのなかで、世界保健機関の基本的関心は、今日依然として人類の多数をおかし、世

界的にみて最も多くの費用を費やしている、マラリア対策に向けられるべきことを述べたあと、とくに、過密都市の悪い衛生条件からくる傷病増加、害虫駆除におけるDDTの効用、各国の人口増加・家族計画問題など、そして、いままでの国連の活動経験からの教訓として、健康水準向上のためには保健従事者の確保が最大問題であることを指摘した。

総会は、1970年の予算案(6,765万ドル)の採択と現行の国際衛生規則の改正(現在の検査法から発疹チフスと回帰熱を除く)を決め、水道への弗素添加を勧告した。

引続き総会は、マラリア撲滅、人口問題、

検査法改正、弗素化と歯科衛生、薬品の品質管理、薬の安全性と効果などについての討議を行なった。このなかでは、とくに、失明(トラコーマなどによる盲)の予防、ならびに開発途上国から先進国への保健従事者の頭脳流出を止めることが大きな話題となった。

専門討論では、国民の保健ニードにみあった技術の適用をいかにすべきか、がとりあげられた。国の保健当局が、基本的な保健事業組織を国全体にはりめぐらすべきこと、ならびに適用される技術の質的改善の必要性が論じられた。

Twenty-Second World Health Assembly  
1·2—*WHO Chronicle*, Vol. 23, No. 9,  
Vol. 23, No. 10, pp. 453-462, Sept., Oct., 1969

(前田 信雄 国立公衆衛生院)